

重点課題 3 将来を見据えた魅力ある都市の整備

施策と事業

施策の基本方針

都市の持続的な発展を目指し、市民・企業・行政が一体となって、都心の魅力と活力を高めるために実効性のあるまちづくりを進めるとともに、市民の日常生活を支える地域の拠点を再整備し、道都にふさわしい風格のある街並みとにぎわいを創出します。また、公共交通機関を軸とした交通体系の確立を図り、人と環境を重視した快適で美しい街の実現を図ります。

重点課題 3

将来を見据えた魅力ある都市の整備

施策1 都心のまちづくり

施策2 快適で魅力的な地域への再構築

施策3 公共交通機関の利便性向上

施策1 都心のまちづくり

都心のまちづくりを一体的かつ効果的に進めるため、「都心まちづくり戦略」を官民が共有しながら策定し、公共による基盤整備や民間再開発プロジェクト*の調整を進めます。また、土地利用と交通対策を的確に組み合わせることで、民間都市開発と公共事業を連携させ、市民生活を豊かにする都市機能の集積地点として都心の再整備を進めます。

さらに、エリアごとのまちづくり組織と連携し、民間主体のまちづくり会社*の立ち上げを支援するなど、エリアマネジメント*の動きを強力に推進します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
都心まちづくり戦略の策定及び推進 市)企画部 [10百万円]	都心を取り巻くさまざまな要因を的確に踏まえ、将来を見据えた都心のまちづくりを一体的・効率的に進めるため、10年程度の中期的な戦略を策定します。 ○都心まちづくり戦略の策定 H18：検討 ⇒ H19：策定 ○都心まちづくり会議の設置 H18：検討 ⇒ H19：設置
創世交流拠点整備事業 (創世1.1.1区再開発事業) 市)企画部 [57百万円]	都心の骨格軸である大通と創成川通の交差点にある創世交流拠点において、市民会館の後継施設である(仮称)市民交流複合施設の整備を含めて、多様な機能や魅力を創出し、都心における新たな拠点形成を図るために創世1.1.1区(北1西1、大通西1、大通東1)再開発の事業化を目指します。 ○創世1.1.1区街づくり指針の策定 H18：検討 ⇒ H19：策定 ○北1西1・大通東1再開発基本計画の策定 H18：検討 ⇒ H19：策定
(仮称)市民交流複合施設整備事業 市)企画部 [50百万円]	新たな市民交流拠点を形成し都心の魅力を高めるために、市民会館の後継施設として北1西1街区での実現を目指している(仮称)市民交流複合施設について、市民意見などの把握に努め、施設の目的・性格や施設内容などについて検討を進めます。 ○施設基本計画の策定 H18：検討 ⇒ H20：策定 ○施設実施方針の策定 H18：－ ⇒ H20：策定
北海道新幹線推進事業 市)企画部 [50百万円]	北海道新幹線の札幌延伸の実現に向けて、関係機関と連携を図りながら市民への情報発信や中央要望などの誘致活動に取り組むとともに、円滑な事業執行に向けた諸課題の整理や対応策の検討を進めます。 ○札幌延伸の早期事業化の推進 H18：－ ⇒ H22：推進

*プロジェクト 研究や開発の計画、企画(の特別な目的のために編成されたチーム)。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
札幌駅交流拠点再整備 構想策定事業 市)企画部 [22百万円]	道都の玄関口にふさわしい交流拠点としてその拠点性を高めることを目標に、札幌駅周辺の再整備構想を策定します。 ○札幌駅交流拠点再整備構想の策定 H18：－⇒H22：策定
大通交流拠点再整備 構想検討事業 市)企画部 [10百万円]	札幌駅前通と大通の交差点において、駅前通地下歩行空間や民間ビルが連携した、都心内の中心を象徴する空間「サッポロ広場」を形成するための検討を進めます。 ○サッポロ広場形成計画の策定 H18：検討⇒H22：策定
都心再生協働事業 市)企画部 [74百万円]	中心市街地活性化法*の改正に伴い、新たな中心市街地活性化基本計画の策定を進めるとともに、都心各地の特性に合わせたエリアマネジメント*の促進を図るほか、まちづくり会社*の設立など、民間主体のまちづくりを支援します。 ○新中心市街地活性化基本計画の策定 H18：検討⇒H20：策定 ○大通・駅前通地区まちづくり計画の策定 H18：－⇒H22：検討
都心交通環境改善事業 市)企画部 [70百万円]	荷さばき・タクシー・観光バス対策など、これまで社会実験などを通じて進めてきた交通施策の実現に向けた取り組みを進めるとともに、都心部の土地利用の動きに合わせた交通環境改善の検討を行います。 ○創世1.1.1区・札幌駅前周辺地区交通環境改善計画の策定 H18：－⇒H22：事業化調整
札幌駅前通地下歩行空間 整備事業 建)土木部 [14,126百万円]	四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保し、都心全体の魅力を向上させるため、地下鉄「さっぽろ駅」と「大通駅」を連絡する地下歩行空間の整備を引き続き実施します。 ○地下歩行空間（地下歩道）の整備 H18：工事中⇒H22：供用開始
札幌駅前通地下歩行空間 活用推進検討 市)総合交通計画部 [180百万円]	札幌駅前通地下歩行空間について、これまでの空間活用検討を踏まえ、施設運営・空間活用に関するルールや制度の具体化、施設整備などを行うとともに、空間利用を円滑に実施するための民間による運営体制を確立します。 ○関連条例の制定 H18：検討⇒H22：制定 ○「にぎわい」がある空間の創出 H18：検討⇒H22：供用準備完了
創成川通アンダーパス* 連続化事業 建)土木部 [10,436百万円]	都心南北交通の主軸である創成川通の北アンダーパス（北3条通～大通）と南アンダーパス（南2条線～南5条線）の2つのアンダーパスの連続化工事を引き続き実施します。 ○アンダーパス連続化 H18：工事中⇒H20：供用開始 ○創成川通地上道路部分整備 H18：工事中⇒H22：完成
創成川通親水緑地整備 事業【再掲】 環)みどりの推進部 建)土木部 [2,100百万円]	創成川通アンダーパス連続化事業により創出される地上部分の河川・緑地空間において、創成川の歴史的価値を重んじつつ、水とみどりを生かした新たな空間を整備します。 ○都心部における水とみどりの空間 H18：－⇒H22：1.9ha
創成川アートワーク* 事業【再掲】 観)文化部 [58百万円]	創成川通アンダーパス連続化事業により生まれる親水緑地空間に、アートの要素を組み込むため、基本計画の策定や委嘱作家による作品制作を行います。 ○アートワークの設置 H18：－⇒H22：設置

施策2 快適で魅力的な地域への再構築

地域の課題や住民活動の熟度に加え民間開発の動向なども踏まえ、多様な市民ニーズに対応した各種機能の複合・集積により、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりをもって提供されるよう拠点を再整備し、誰もが安心して安全に移動できる交通環境づくりを進めます。

また、適切な規制と緩和の下、市民・企業・行政の協働による取り組みを充実し、既存資源を再生・活用するとともに、景観に関するルールに基づき、市民による街並みなどの景観づくりの誘導方を定め、札幌の自然、歴史や文化を大切にしたい美しい都市景観づくりを進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
丘珠空港周辺のまちづくり事業【再掲】 市)企画部 環)みどりの推進部 [4,681百万円]	丘珠空港と周辺地域との調和した発展を目指し、「丘珠空港周辺のまちづくり構想」に基づいて丘珠空港緑地の整備などを引き続き進めます。 ○緑地整備の推進 H18：4.1ha ⇒ H22：10ha
市民との協働による都市計画制度の普及 市)都市計画部 [12百万円]	都市計画の制度やしぐみをわかりやすく説明した「まち本」や子ども向けの「ミニまち」を活用した出前講座などを実施し、都市計画制度の普及・啓発、まちづくりへの市民参加のきっかけづくりを進めます。 ○「まち本」等活用講座受講者数 H18：127人 ⇒ H22：500人
地域特性に応じた土地利用の再構築事業 市)都市計画部 [50百万円]	建替更新時期を迎える高度利用住宅地*や開発時期の古い郊外住宅地などについて、土地利用ルールのあり方や土地の利用転換などを検討し、時代の変化に対応した再構築を図ります。また、地域が自主的に定める「地域のまちなみルール」への配慮を求める制度を創設します。 ○地区計画*の決定、変更数 H18：－ ⇒ H22：3地区 ○地域まちなみづくり推進制度の策定 H18：検討 ⇒ H21：策定
苗穂駅周辺のまちづくり事業 市)都市計画部 [14百万円]	地域とともに策定した「苗穂駅周辺地区まちづくり計画」を推進するために、JR駅舎の移転や自由通路、駅前広場などの整備に向けた調整を行うとともに、より具体的なまちづくり推進プログラムを策定します。 ○まちづくり推進プログラムの策定 H18：検討 ⇒ H22：策定
景観計画推進事業 市)都市計画部 建)管理部 [16百万円]	都心部における新たな景観計画重点区域の指定や住宅地などにおける良好な景観形成の推進を図るとともに、市民の景観意識醸成のための普及啓発事業を実施します。また、景観計画重点区域である「大通地区」と「札幌駅前通地区」を景観保全型広告整備地区*に指定します。 ○景観計画重点区域の指定及び既指定地区の基準等見直し H18：－ ⇒ H22：3地区 ○地域における景観まちづくりの展開 H18：－ ⇒ H22：1地区 ○景観保全型広告整備地区の指定 (大通地区) H18：協議 ⇒ H20：指定 (札幌駅前通地区) H18：協議 ⇒ H22：指定

*景観保全型広告整備地区 良好な景観を保全し、形成するため、広告物の整備を図ることが特に必要な地区を市長が指定し、広告物の表示・設置に関する基本方針や許可の基準を定めるもの。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
都市景観重要建築物等の保全事業 市)都市計画部 [30百万円]	都市景観条例に基づき、都市景観重要建築物などの保存のための経費の一部助成を行います。また、歴史的建造物の周辺への景観的配慮を示したガイドラインの策定や景観法に基づく景観重要建造物、景観重要樹木の指定に向けた調査を行います。 ○都市景観重要建築物等の指定件数 H18：18件 ⇒ H22：30件
乗継施設等整備推進事業 市)総合交通計画部 [27百万円]	乗継施設等整備基本計画に基づき、緊急性及び優先性が高い、地下鉄栄町駅とJR苗穂駅の乗継利便性向上への取り組みを進めるとともに、新たな交通体系マスタープラン*を受けた、整備基本計画の見直しを行います。 ○栄町駅周辺交通環境整備計画の策定 H18：検討 ⇒ H19：策定 ○乗継施設等整備基本計画の見直し H18：検討 ⇒ H22：策定
自転車利用適正化対策事業 市)総合交通計画部 [30百万円]	自転車利用に関する交通手段としてのあり方や交通機関との連携などについて市民も交えた議論を行い、自転車走行空間、駐輪対策、利用ルール・マナーなどの考えを総括した総合計画を策定します。 ○(仮称)自転車利用総合計画の策定 H18：調査、検討 ⇒ H21：策定 ○駐輪場附置義務条例の適用対象施設拡大 H18：調査等 ⇒ H21：条例改正
民間再開発による地域まちづくりへの支援事業 都)市街地整備部 [2,605百万円]	民間活力を活用し、都心部の活性化や地域拠点の再整備を図るため、土地の高度利用や公共施設の一体整備、防災性の向上やみどり・空地の確保などによる良好な市街地環境の形成が進められる再開発事業を支援します。 ○JR篠路駅西第2地区再開発事業 H18：－ ⇒ H21：完了 ○琴似4・2地区再開発事業 H18：－ ⇒ H22：完了
“ひかりの”元気の杜推進事業 都)開発事業部 環)みどりの推進部 [1,477百万円]	都心から7kmに位置し、モエレ沼公園などが近接する恵まれた立地条件を生かした東雁来第2土地区画整理地区内において、サッカー場2面を備えた東雁来公園などの整備を核に、みどり豊かな街づくりを進めます。 ○土地活用率(地区内において宅地建設など土地の利用が図られた割合) H18：19% ⇒ H22：30% ○公園・緑地面積 H18：1.4ha ⇒ H22：10ha
図書館サービス網の拡充 教)中央図書館 [35百万円]	図書館サービスの充実と向上を図るため、図書館施設のネットワーク化、地区センター内図書カウンターの開設、インターネット予約システムの導入などを進めます。 ○ネットワークへの組み入れ箇所数 H18：38カ所 ⇒ H19：40カ所
やすらぎ歩行空間プランの策定 清)市民部・土木部 [8百万円]	旧国道36号線である市道清田4号線について、魅力的でやすらぎがあり楽しみながら歩ける歩行空間づくりのプランを、住民や企業などによるまちづくりに関する会議を立ち上げて策定します。 ○やすらぎ歩行空間プランの策定 H18：－ ⇒ H22：策定

*交通体系マスタープラン 道路や公共交通などからなる総合的な交通網を整備するための指針となる基本計画。

施策3 公共交通機関の利便性向上

地球環境への負荷軽減や高齢社会の進展に伴いその重要性が高まる公共交通について、誰もが利用しやすい環境を目指し、駅のバリアフリー*化や乗継環境の向上、ICカード*の導入などを進めます。

また、北海道新幹線の延伸や地域の拠点整備などを考慮の上、将来のまちづくりの方向性を踏まえた交通体系のあり方について検討を進めます。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
将来交通体系の検討 市) 総合交通計画部 [296百万円]	公共交通ネットワークの維持・充実、都心の再生、長期未着手の都市計画道路の見直しなどの課題に的確に対応していくため、交通実態の調査・解析を行い、将来を見据えた交通体系の検討を行います。 ○交通体系マスタープラン*策定 H18：調査、検討 ⇒ H20：策定
路面電車活用方針検討調査 市) 総合交通計画部 [67百万円]	「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」によって提案された活用の方向性に基いて必要な検討・検証を行い、事業化判断のために必要な基本計画(案)をまとめ、市民の意向を把握した上で市としての方向性を決定します。 ○基本計画(案)の策定 H18：検討 ⇒ H21：策定
路面電車老朽車両の更新に伴う低床車両の導入 交) 高速電車部 [-]	現在運行している路面電車30両のうち、老朽化が著しい車両を更新し、バリアフリー新法*に基づく低床車両の導入を行います。 ○低床車両の数 H18： - ⇒ H22：1両
バス交通維持対策事業 市) 総合交通計画部 [29百万円]	地域の足の確保のため、市としてのバス交通のあり方を検討するとともに、「使いやすさ」や「わかりやすさ」の向上を図るため、市民利用の普及啓発や関係事業者などの協力の下、利用環境改善の方策を検討します。 ○バス交通のあり方設定 H18：検討 ⇒ H21：設定 ○バス利用環境改善方策策定 H18：検討 ⇒ H20：策定
交通バリアフリー推進事業【再掲】 市) 総合交通計画部 [160百万円]	バリアフリー新法の施行に伴い、札幌市交通バリアフリー基本構想*の見直しを行うとともに、交通事業者が実施するバリアフリー化を促進するため、施設整備などに対して補助を行います。 ○利用者5,000人/日以上の上り降車駅バリアフリー化(累計) H18：9駅 ⇒ H22：12駅 ○ノンステップバスの導入台数(累計) H18：51台 ⇒ H22：75台
交通結節点*改善事業(JR白石駅周辺地区) 建) 土木部 [4,524百万円]	JR白石駅周辺において、鉄道により分断されている市街地の一体化や、交通結節点へのアクセスの向上、公共交通機関の乗り継ぎ利便性の向上を図るため、自由通路、駅前広場などの整備を引き続き実施します。 ○JR白石駅自由通路の整備 H18： - ⇒ H22：供用開始
地下鉄ICカードシステムの導入 交) 事業管理部 [3,271百万円]	改札機にかざすだけで自動的にICカードから運賃が差し引かれるなど、誰でも利用しやすい地下鉄サービスを提供するため、老朽化に伴う改札機などの更新と併せて、関連機器のICカード化への対応を行います。 ○地下鉄へのICカードの導入 H18： - ⇒ H20：導入
交通ICカードの導入と活用 市) 情報化推進部 [5百万円]	地下鉄においてH20年度内の先行導入を目指しているICカードについて、民間バス事業者との共通化や、商業分野との連携、行政サービスへの活用などの枠組みを検討します。 ○ICカードの商業、行政利用との連携枠組み検討 H18： - ⇒ H21：検討

*ICカード 情報の記録や演算をするために半導体集積回路(ICチップ)を組み込んだカードのこと。従来の磁気カードと比べ情報容量が格段に増加する。

*交通結節点 地下鉄駅やJR駅、バスターミナルなど、さまざまな交通手段(徒歩、自動車、バス、鉄道など)が相互に連絡される場所。

成果指標

	現 状 値	目 標 値
【市民意識・行動指標】		
・札幌の都心に「にぎわい」があると感じる人の割合	64.7% (H18)	75% (H22)
・住んでいる地域の住環境（街並み）に満足している人の割合	53.4% (H18)	65% (H22)
・公共交通に対する満足度	42.3% (H18)	50% (H22)
【社会成果指標】		
・公共交通の利用者数	109万人 (H18)	110万人 (H22)

各主体の主な役割

市 民

- まちづくり活動への参加
- 街並景観の魅力づくりへの参加
- 環境に配慮した適切な交通手段の選択と行動
- 自転車利用のルール遵守やマナーの向上 など

企業等

- まちづくり活動への参加
- まちづくりに必要な援助や専門的知識・技術の提供
- 企業活動における公共交通利用
- 公共交通の利便性向上（交通事業者）など

町内会・NPO*等

- まちづくりについての提言
- 交通に関する提言や実験などの活動
- まちづくり活動の企画・運営 など

行 政

- 市民、企業等によるまちづくり活動の支援
- 都心再生を先導する基幹的な都市基盤整備
- 地域特性に応じた土地利用の再構築
- 魅力ある街並、景観を創出するためのルールづくり
- 公共交通が利用しやすい環境の整備と交通事業者への支援
- 自転車利用適正化のためのルールづくり、マナー向上に向けた取り組み など



重点課題 4 新たな集客交流資源の創出と魅力の発信

施策と事業

施策の基本方針

世界の集客交流都市さっぽろの実現を目指し、札幌の魅力である、食や自然、文化芸術などのハード・ソフトの資産を集客交流資源として積極的に活用し、札幌独自の魅力づくりや観光資源の発掘を行うとともに、受入対応を充実するなど、観光やコンベンション*の一層の振興を図ります。また、道内各市町村とも連携して道内各地の食や観光などの情報を発信する拠点機能を充実するなど、集客交流を推進します。

重点課題 4

新たな集客交流資源の創出と魅力の発信

施策1 観光魅力づくりの推進

施策2 観光客及びコンベンションの受入強化と誘致促進

施策3 道内各市町村と連携した魅力の発信

施策1 観光魅力づくりの推進

さっぽろ雪まつりやライラックまつりなど札幌の四季の魅力を発信するイベントや札幌の代表的な観光スポットである藻岩山などの既存の観光資源について、より多くの観光客が訪れ楽しめるよう、さらなる魅力アップを図ります。

また、大通公園において食をテーマとした秋のイベント事業や冬のスケートリンク設置を行うなど、都心の魅力や美しい都市景観、食や文化芸術といった札幌独自の魅力を融合させ、新たな観光魅力づくりや観光資源の発掘を推進します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
さっぽろ雪まつり魅力アップ事業 観) 観光部 [112百万円]	市民参加・体験型のさとらんど会場の魅力アップを図るため、市民参加のしくみや組織づくりへの支援や子ども向け体験学習事業を実施するほか、駐車場・トイレ増設などおもてなし向上の取り組みを行います。 ○参加団体数 H18：9団体 ⇒ H22：15団体 ○雪まつりの満足度 H18：57.7% ⇒ H22：70.0%
ライラックまつり魅力アップ事業 観) 観光部 [12百万円]	ライラックまつりにおいて、大道芸やパフォーマンス*など多彩な札幌文化の楽しみや食の充実を図るほか、中国大連市アカシアまつりとの提携によって相互交流を図り、中国からの観光客誘致につなげていきます。 ○観客数 H18：346,700人 ⇒ H22：500,000人
「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担 総) 国際部 [40百万円]	姉妹都市ミュンヘン市の伝統行事であるクリスマス市を、ホワイトイルミネーションを実施している大通公園で開催し、ミュンヘンの文化を感じる冬の集客交流イベントとして推進します。 ○来場者数 H18：44.6万人 ⇒ H22：50万人
藻岩山魅力アップ事業 観) 観光部 [604百万円]	老朽化したロープウェイや展望台などの施設について、自然環境に配慮しつつ、バリアフリー*化に対応した再整備を行うほか、「藻岩山の日」などのソフト事業をさらに展開することによって、藻岩山の魅力アップを図ります。 ○藻岩山の再整備 H18：－ ⇒ H22：整備

*パフォーマンス 街頭などで行う演技、演劇、演奏などの表現。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
定山溪温泉活性化補助 観)観光部 [12百万円]	定山溪温泉地域の観光地活性化に向けた自主的なまちづくり活動や、地域の魅力向上、来客受入体制の充実、来客誘致促進などの事業に対して補助を行います。 ○定山溪の来客数 H18：2,435千人 ⇒ H22：2,584千人 ○定山溪の来客の満足度 H18：82.6% ⇒ H22：85%
新たな秋のイベント事業 観)観光部 [149百万円]	大型イベントの少ない秋に集客増を図るため、大通公園において「秋の豊穰祭」をテーマとして、北海道の食を中心に地産地消*、食育*などをコンセプトとした新たな集客イベントを実施します。 ○観客数 H18：－ ⇒ H22：80万人
大通公園スケートリンク・スクエア事業 観)観光部 [160百万円]	かつて札幌の冬の風物詩であったスケートリンクを大通公園西1丁目に設置し、夜間のライトアップにより札幌の冬の新名所とし、市民や観光客に気軽にスケート体験のできる機会を提供します。 ○利用者数 H18：－ ⇒ H22：1万人
平岡公園・梅林ライトアップ事業 観)観光部 [27百万円]	札幌の新たな観光魅力づくりとして、平岡公園・梅林について梅の開花時期に合わせて梅林の一部をライトアップし、観光資源として定着させていきます。 ○梅開花時期の夜間入園者数 H18：－ ⇒ H22：17,600人
北緯43° 花香る北の街づくり事業【再掲】 環)みどりの推進部 建)管理部 [200百万円]	地域特性に応じた美しい街並みをつくるため、地域が主体となった花壇づくり（コミュニティガーデン）を推進するほか、市民自ら花苗を育成して植栽する取り組みを支援します。 ○コミュニティガーデン設置数（累計） H18：－ ⇒ H22：30カ所 ○花を活用した管理を行う道路残地*箇所数（累計） H18：－ ⇒ H22：10カ所

施策2 観光客及びコンベンションの受入強化と誘致促進

集客増を図るため、特に外国人や国内の個人客に対応した、ホスピタリティ*の向上や観光情報提供の充実など受入環境を整備するとともに、観光客の誘致について、対象に合わせた効果的な誘致宣伝活動や民間事業者との協働による観光魅力づくりの取り組みなどを進めます。

また、集客・経済効果の高いコンベンション*について誘致活動を積極的に行うほか、北海道洞爺湖サミット*開催に合わせた関連事業への支援などを実施します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
観光都市さっぽろ推進事業 観)観光部 [150百万円]	集客交流を促進するため、国内外の個人客への対応充実や、まち全体のおもてなしの充実、札幌の魅力発掘や新たな魅力創出の支援や発信、コンベンションの誘致・支援など、まち全体の魅力を高め、来客者の増加を目指す事業を展開します。 ○外国人観光客のリピーター率 H18：25.4% ⇒ H22：30% ○札幌観光の満足度（おもてなし） H18：69.5% ⇒ H22：75% ○コンベンションの開催件数 H18：911件 ⇒ H22：1,050件
首都圏シティPR*事業 総)東京事務所 [92百万円]	札幌への集客を図るため、首都圏において、広告媒体や集客イベントを活用して、札幌のイメージやブランド・観光の魅力を発信し、観光客やコンベンションなどの誘致を行います。 ○観光集客イベントの集客人数 H18：7.1万人 ⇒ H22：7.5万人 ○コンベンション開催団体への訪問回数 H18：501件 ⇒ H22：620件

***ホスピタリティ** 来客に対して、受け入れ側の人々が気持ちよく接し、快適で強い印象と深い満足感を与え、再び訪れたいようにさせる心のこもったおもてなし。

***サミット** 主要国の首脳が一堂に会し、経済・社会問題など国際社会が直面する課題について意見交換し、合意形成を行う会議。現在は日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシアの8カ国が参加し、毎年開催されている。

***シティPR** 都市の知名度やイメージの向上を図るための各種PR。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
ターゲット別国内観光 プロモーション事業 観) 観光部 [36百万円]	旅行会社や、首都圏・関西圏の一般市民などの対象(ターゲット)別に、説明会やさっぽろスイーツ*プロモーション(宣伝)、首都圏での修学旅行誘致、旅行商品開発支援など、特性に合った誘致宣伝活動を実施します。 ○道外観光客の来客数 H18: 6,398千人 ⇒ H22: 6,791千人 ○スイーツを楽しみにした観光客の増加 H18: 24.2% ⇒ H22: 35%
国際観光誘致事業 観) 観光部 [44百万円]	観光客の増加が見込まれる東アジアやオセアニアなどを対象として、国が実施するビジット・ジャパン・キャンペーン*と連携し、イメージ発信や旅行商品開発支援などの誘致宣伝事業を行います。 ○外国人延べ宿泊者数 H18: 559,272人 ⇒ H22: 70万人
アジア学生交流事業 【再掲】 総) 国際部 [3百万円]	国が実施する「21世紀東アジア青少年大交流計画」により、来日し札幌を訪れるアジアの学生たちと、市民レベルの交流を進め国際理解を深める市民交流事業を行います。 ○市民交流事業等参加者数 H18: - ⇒ H22: 500人
北海道洞爺湖サミット* 開催関連事業 総) 国際部 [-]	北海道洞爺湖サミット開催に合わせて、札幌市のPRを積極的に行うほか、道民会議などを通じた開催支援やサミット関連プログラムの運営支援を行います。 ○サミットの支援 H18: - ⇒ H20: 推進
国際園芸博覧会*構想の 検討【再掲】 市) 企画部 [12百万円]	国際園芸博覧会(花博)について、テーマ・コンセプト、開催候補地、概算費用や波及効果などの基礎調査を行い、市民の意向を把握した上で開催誘致の是非を決定します。 ○開催誘致の是非決定 H18: - ⇒ H20: 決定

施策3 道内各市町村と連携した魅力の発信

道内各市町村と連携し、国内外へ向けた食や観光資源などの情報発信や特産品の販売を行うための拠点を都心に整備するなど、札幌の都市の魅力や機能、集客力を道内各市町村に活用してもらうことを通じて、北海道の中心都市、拠点都市として先導的な役割を果たし、北海道全体の魅力向上や活性化を目指します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
都心部における北海道の 魅力発信事業【再掲】 市) 企画部 [65百万円]	北海道全体の魅力向上や活性化を図るため、道内各市町村と連携し、国内外へ向けた食や観光資源などの情報発信や特産品の販売を行うための拠点を都心に整備します。 ○来場者数 H18: - ⇒ H22: 10万人 ○道内各地域からの出展者数 H18: - ⇒ H22: 50件
新たな秋のイベント事業 【再掲】 観) 観光部 [149百万円]	大型イベントの少ない秋に集客増を図るため、大通公園において「秋の豊穰祭」をテーマとして、北海道の食を中心に地産地消*、食育*などをコンセプトとした新たな集客イベントを実施します。 ○観客数 H18: - ⇒ H22: 80万人
(仮称)札幌広域ドライブ ルートマップ作成事業 観) 観光部 [12百万円]	観光客のレンタカー利用の増加に対応して、札幌および札幌周辺エリアの魅力を広めるため、札幌を基点とした車での日帰り圏内のドライブルートマップを作成配布するほか、ホームページで広く情報発信を行います。 ○参画施設の入場者数の伸び率 H18: - ⇒ H22: 1.5%アップ

*ビジット・ジャパン・キャンペーン 2010年に訪日外国人旅行者数を1,000万人とすることを目標に、国が地方や民間と連携して、海外観光客を日本へ呼び込むための誘致宣伝活動などを行う取り組み。

成果指標

	現 状 値	目 標 値
【市民意識・行動指標】 ・観光地としての総合満足度	84.7% (H18)	90% (H22)
【社会成果指標】 ・年間来客数 ・外国人延べ宿泊者数 ・札幌市内での総観光消費額	1,410万人 (H18) 559,272人 (H18) 4,776億円 (H16)	1,500万人 (H22) 70万人 (H22) 5,500億円 (H21)

各主体の主な役割

市民・町内会・NPO*等

- 来客を温かく迎えるおもてなしの実践
- 観光魅力づくり、観光魅力の再認識
- ボランティアの育成と自立化の支援など

企業等

- 観光魅力づくり、旅行商品の開発、誘致
宣伝活動
- 観光客などへのより良いサービスの提供
- 集客交流都市を支える人材の育成 など

関係団体

- 国内外向けの誘致宣伝活動
- 観光客受入対応の充実
- 観光魅力の保護・活用の
促進 など



大学等

- 集客交流に関する研究者などの人材育成
- 集客交流に関する研究情報の発信
- 企業、行政との共同調査・研究 など

行政

- 市民、NPO、企業、関係団体などとの
連携促進
- 観光魅力づくり、旅行商品開発に対する
支援
- 国・北海道・他市町村との連携による
施策展開 など